

町のさまざまな話題を、カメラで追いかけます。

# フォトパレット Photo Palette

皆さんの身近で起きた出来事や楽しい話題、イベントなどの情報を「広報おうら」編集部まで、お気軽にお寄せください。☎47-5007

## 七福神巡りで福がきますように



Best Shot

1月9日、16日の2日間、上州邑楽七福神を愛する会による上州邑楽七福神巡りが行われました。これは、邑楽七福神を中心とした道中にある自然や文化財を約7時間かけて巡るもの。2日間で168人が参加し、新年の邑楽路を歩きました。森和男さん(新中野・33区)は、「今回、初めて夫婦で参加しました。町の自然と文化財を見ながら、気持ちよく歩くことができました」と話してくれました。



## 楽しい手作りだるま教室



1月16日、長柄公民館で子ども手作りだるま教室が行われました。子どもたちは、折り紙ブロックを合わせてだるまを作製。松田朝乃さん(水立大黒・23区)は、「だるまは縁起がいいので、勉強机にかざりたいです。勉強ができるようになればいいなあ」と話してくれました。



## カルタ会で楽しく熱戦!

1月21日、中野幼稚園でカルタ会が行われ、園児たちは子ども用のカルタを楽しみました。1等賞になった高崎直騎ちゃん(十三坊塚・6区)は、「カルタをたくさん取れるように家で練習したので、1等賞になれてうれしいです。とても楽しかったです」と話してくれました。



## 家族が健康で幸せに!

1月1日、多々良沼公園内の浮島弁財天神社で初日の出を見るイベントが行われ、新中野八木節保存会による八木節や関東学園大学附属高校の生徒による和太鼓が披露されました。家族連れなど約1,000人の皆さんが訪れ、思い思いに初日の出を楽しんでいました。

## 町の歴史 連戦三百三十九回

41 細谷清吉(歴史研究家)

細谷右馬助秀国(一)は、泉福寺、新田義貞が戦死して足利尊氏の天下となるや、細谷右馬助秀国も没落して故国に帰りました。本領の新田庄細谷は、すでに足利方の手に落ちて秀国は佐貫庄篠塚南部の未開の地である坪谷に居を定めました。この地は旧知の佐貫氏の支配下で、落武者が世を忍ぶには格好の地でありました。坪谷は現在、邑楽町篠塚東部に属する地名で、上・中・下の三つの小字に分かれています。秀国が居を定め、館づくりをしたのは上坪谷です。正平二年(一三四七)、細谷秀国は丹後国元伊

勢籠神社から奉じてきた神靈を住居の鬼門にあたる東北に祭りました。自らは出家して法号を弘林と称し、戦死した部下や新田氏関係者の冥福を祈るため寺院を建立しました。それが籠宮山観音院泉福寺です。山号の籠宮は丹後の本社から祭つた籠宮の神号で、泉福寺の守り神を山号したものです。院号の観音は「聖観音像」で観音堂に安置され、江戸時代になって両野三十三観音七番札所となりました。寺号の泉福は右馬助秀国の部下で戦死に散った者たち「新田一族」の黄泉浄土の冥福を祈るために建てた寺という意味です。泉福寺古記に「所在地は佐貫庄篠塚村、開基正平三年(一三四八)細谷右馬助(秀国)の入道弘林(古義真言宗赤岩山高恩時)後に光恩寺。末、本尊不動明王。この泉福寺は戦国時代、兵火にか

かって衰えましたが、江戸時代になって寛永二年(一六二五)に再興されました。「籠林領篠塚村、籠宮山泉福寺中興開山の儀法印秀栄寛永一年入院より、以来六代住持相統住り、当年迄五十一年に罷り成り候。本寺は赤岩村光恩寺に御座候。以上 延宝三年乙卯年三月二十九日篠塚村 泉福寺 御検地御奉行所 一、泉福寺より申し上げ候通り少も相違無く御座候。若し偽りの儀も御座候時は如何様の曲事も仰せ付けらるべく候。後日の為仍って件の如し。御見地案内 名主 長左衛門、同七左衛門、文左衛門、市郎右衛門 以下三名略」



泉福寺跡(篠塚坪谷)